

リエゾン「繋ぐ」シニアが、求職シニアと企業をマッチング

産業雇用安定センターで活躍する坂本さん

今月号でご紹介するリエゾン「繋ぐ」シニアは、公益財団法人産業雇用安定センター（以下…同センター）の東京事務所で、参与（キャリアコンサルタント）として、中高年齢者を中心とした求職相談者と求人企業との人材マッチングに奔走中の坂本博幸さん（64歳）です。

同センターでの業務は、主にセカンドキャリアを見据えた転職支援と、人材ニーズの引き出し活動です。全国47都道府県で、職業経験豊かな中高年齢者500名の参与が活躍中です。また、新型コロナウイルスでは、大手運輸会社や旅行代理店からの在籍出向支援なども加わり、設立主旨である「失業なき労働移動」を支援する公的機関としての役割は益々大きくなっています。

坂本さんのこれまでのキャリアとは

坂本さんは、50代半ばまでは大手輸送機器メーカーの会社員でした。新卒入社以降、国内営業部門、海外事業部門、調達部門、監査部門で幅広く経験を積み、最後は、豊富な業務知識・人脈を買われてBCPの策定リーダーとして活躍され、55歳での役職定年を機に同センターに出向したキャリアの持ち主です。

出向当時は振り返って坂本さんは「こ

れまでの仕事で扱っていた物品とは違い、新しい仕事は他人の人生を背負う仕事であり、多くの方が扶養義務のご家族をお持ちであることから、自分にその資格があるのか自問自答を繰り返した」と述懐されました。そこで、坂本さんは、当時国家資格になったキャリアコンサルタント資格に挑戦、新鮮な学びを通じて修得し始めた「理論と実践」の経験が増したことで、徐々に求職者に寄り添ったキャリアの相談業務ができるようになったと、10年近くの歩みを語ってくださいました。



坂本博幸さん

シニア人材の心を開いてもらうために

現在のお仕事のやりがいについて坂本さんは、「相談者の中には、性急に求人企業の紹介をお求めになる方もいます。一方で、私たち参与は、新天地でのご成功を願って、相談者の強みや、働く目的・意欲、紹介先との相性などを見極めるため、じつ

くりと相談者と向き合おうとします」「最初は自分のことを話しながらない方も多いですが、こちらが傾聴姿勢に徹することで心を開いていただけます。センターへの出向前業務もセンターの人材マッチングも、人と真摯に向き合うことは共通点ですね」と優しい笑顔でお話いただきました。

そんな坂本さんが、多くのシニア人材をお繋ぎしてきたのが、高齢者雇用のパイオニア企業とも言われる株式会社太平洋（本社・東京都千代田区）です。次号では、太平洋での高齢人材活用をご紹介します。

池口武志（いけぐち・たけし）

一般社団法人定年後研究所理事所長
1963年生まれ。1986年日本生命保険相互会社入社。現在、株式会社星和ビジネスリンク取締役常務執行役員、キャリアコンサルタント（国家資格）としても活動中。



一般社団法人定年後研究所

人生100年時代の中で、中高年社員のセカンドキャリアの充実に向けた調査活動を展開中。定年前後の自走人生にチャレンジする会社員と、それをサポートする企業を応援。当記事へのご意見感想を、ポータルサイト <https://www.teinengo-lab.or.jp>「お問い合わせ」に寄せてください。